

# 金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和五年八月一日発行 第一二二号

檀信徒の皆様こんにちは。線状降水帯が大きな被害をもたらしました。被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

庫裡並びに法要会館の建設のため移植をしたツツジから新芽が吹いています。植え替えをすると、根を張るまでは葉っぱを落とすことが多いのですが、ツツジがこんなにも強いとは知りませんでした。私などは実家に戻って来ただけでも生活のリズムがと整わないのに見習いたいものです。

七月の講習会では鳥取大学医学部の孫大輔先生が監督として制作された「うちげでいきたい」の映画を鑑賞致しました。「うちげでいきたい」とは鳥取弁で「家で逝きたい」との意味です。あらすじは鳥取の大山町で余命の告知を受けた母・民代と、同居する引きこもりの息子・雅文、仕事に追われて毎日を忙しく過ごす娘・瀬川珠美。そして不登校気味の孫娘・莉奈が主な登場人物です。すれ違いの各々が母の在宅での看取りをきっかけに、母を安心させたい一心で自分たちの成すべき役割を考え、生活の中で演じだします。息子は嘘の就職活動をして内定を振る舞い、娘は離婚した夫との復縁を演じます。孫娘は夏休みを利用して祖母と生活を共にし、祖母から買ってもらったカメラで、祖母が旅行く姿と

それぞれの葛藤や愛情を撮り続けながら看取ります。

私も十三年前に実父を当時、同居していた自宅で看取った経験があります。大切な身内の衰えていく姿を目の前にして、時を共に過ごすのは辛いものがあります。年間に何人ものお檀家様に引導をお渡しする身でありながら、肉親の死は受け入れがたいものがありました。

父がどのような考えから自宅で最期を選択したかは分かりませんが、自分の死を子供や孫に見せるというのは、親にしか出来ない身をもつての「教え」の様に私には感じました。

近年はコロナ禍で入院をしようとする面会が出来ないために自宅で看取りを選択された方も少なくはありません。自宅での出産が消え、葬儀が無くなり、看取りも少なくなりました。その要因の一つには核家族があると思います。我が家の場合は父を見送った時には母も若く、嫁と妹がいましたので私の日常にはほとんど支障が有りませんでした。しかし、今ではご夫婦のみであってもケアマネさんや訪問看護師さんの力を借りて、自宅での最期をお迎えできる体制が整っているようです。題材がナーバスなだけに映画の感想は様々でしたが、誰もが通る死出の旅路ですから選択枠の一つとして頭の片隅に「いえでげ」があっても良いかと改めて思いました。

## 講習会のご案内

日時 九月六日(水曜日)十三時より

場所 金剛宝戒寺本堂において

講演 叶宜朗先生による巡廻ご詠歌講習

ご詠歌とは仏教や真言宗の教えに旋律をのせて唱えるもので、鈴鉦(れいしやう)を合わせてリズムを取ります。前々回の開創法会の時代には全国的にもブームだったそうです。無理のない曲調は不思議と口ずさみたくありません。難しい講習会ではなく、ご詠歌のすそ野を広げるための講演会ですのでお気軽にご参加ください。

現在、法要会館と庫裏の建築中です。お墓参り等に来られるときは足元にくれぐれもご注意ください。裏面に再度詳細を書かせて頂いております。宜しければ目を通してください。

## 中止

千巻心経並びに供養盆踊り

今年は三年ぶりに千巻心経と盆踊りを行うつもりでしたが法要会館と庫裏の建立中で鉄板などを引いており、夜間のお参りは危険と判断を致しましたので中止といたします。

余白を埋めるのに困っているわけではないのですが、皆様に一句献上させて頂きます。

六つの鐘 朝雨過ぎて 蝉しぐれ

合掌